

激動の昭和と共に生き、

晩年からの絵画に思いを託す

一陽会会友(洋画) 岡田 博

私は今年三月で八十二歳になりました。昭和の初めに生まれ、戦争・敗戦と有史以来

かつて日本が経験した事のないその激動の昭和も終わり、

平成に入り既に二十数年と、

この間八十数年苦しかった事又楽しかった事等、得がたい

体験が出来たこの時代に生を受けた事を喜んでいると共に、

今後の残り少ない日々を悔い

ないようになりたいと思つています。

過去を振り返れば、終戦の翌年富山の工業学校を卒業し

過去を振り返れば、終戦の翌年富山の工業学校を卒業し

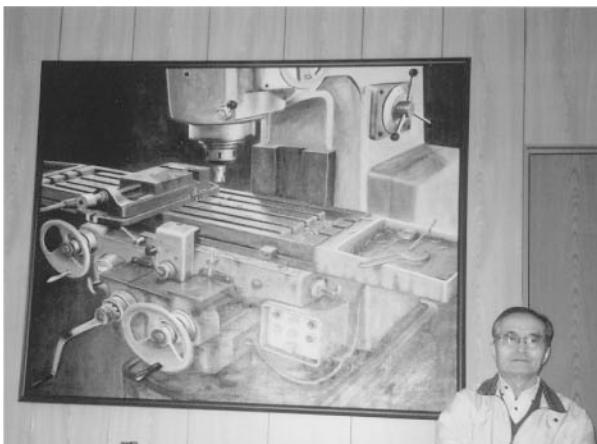
過去を振り返れば、終戦の翌年富山の工業学校を卒業し

俳句 山の蟻

中村 なづな

(俳人・金沢市世連石川会員)

さりげなく言伝てゆく山の蟻
引越して青水無月に手を洗ふ
世を隔つ三日目の薔薇重くなる
雨の目が並んで垂る蜘蛛の糸
接ぎ穂なきまま土用波見てるたり
山清水さびしき神を掬ひける
片蔭に許し合ひたる犬どゐる



自作絵画「工場の一隅」の前に座る筆者

仕事も趣味も
共通

きの為にまだまだやり残した事、大いに挑戦し探求したい事などで一杯でした。そこで引退後手始めにと、子供の頃から岡工が好きで、そんな事情もあつてかわざ飛びついだのが絵画でした。

私がまだまだやり残した

事、大いに挑戦し探求したい

事などで一杯でした。そこで

引退後手始めにと、子供の頃

から岡工が好きで、そんな事

情もあつてかわざ飛びつい

だのが絵画でした。

私がまだまだやり残した

事、大いに挑戦し探求したい

事などで一杯でした。そこで